

奈良県における「持続可能な交通安全施設の整備の在り方に関する検討会」 概要

概 要

我が国は急速な人口減少時代に突入。特に人口減少の著しい地方部では地域が維持できなくなり、将来的には消滅する地方自治体が予想されるほか、様々な事象・分野に影響が及び、道路交通環境もその例外ではない。

県警察が管理・整備する信号機を含む交通安全施設等についても、急激な人口減少とその地域的な偏在、地方財政の動向等に合わせた変化を余儀なくされることが想定されるが、現下でも厳しい財政状況を考慮すると、限られた財源の中で最大の効果を上げるべく「選択と集中」を進める必要がある。

この進むべき方向性を見据え、効率的な歩みを進めるため、有識者を交えた検討会を開催し、奈良県の「今後20年超の将来を見据えた交通安全施設の在り方」について検討している。

検討会構成員（12名）

（委員長）	蓮花 一己	帝塚山大学学長
（副委員長）	飯田 克弘	大阪大学大学院准教授
（委員）	中村 秀雄	（一財）奈良県老人クラブ連合会会長
	原 久弥	国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所長
	西橋 奈穂	奈良県子ども・女性局女性活躍推進課長
	岡部 共成	奈良県県土マネジメント部道路政策官
	六車 憲雄	奈良県県土マネジメント部道路保全課長
	稲葉 功	奈良県教育委員会保健体育課長
	山崎 友宏	奈良県警察本部交通部長
	金田 実	奈良県警察本部交通部参事官
	今村 浩三	奈良県警察本部交通部交通規制課長
	松岡 成明	奈良県警察本部交通部交通管制官

第1回検討会とりまとめ

交通安全施設を取り巻く現状

- 人口減少、少子高齢化の更なる進展
- 運転免許保有者数、車両保有台数は横ばい傾向
- 交通量（自動車総走行台キロ）の減少
- 交通事故件数、死者数及び負傷者数の減少
- 交通安全施設のストック数、更新数の増加
- 老朽化に起因する交通安全施設の倒壊等の危険性

交通安全施設の持続可能性を確保するための課題の整理

- 課題
 - 1 交通安全施設の整備について
 - ・ 高齢者が活躍できる社会
→ 高齢者の移動の確保を含め、使いやすい施設の整備
 - ・ 信号機に頼らない安全対策
→ 他の施策、技術の導入
 - 2 交通安全施設の維持管理について
 - ・ 自動運転技術の実用化を見据える
→ 交通安全施設の適正な管理
 - ・ 確実な点検と危険性の高い施設の優先的な更新
→ 必要な予算、人員の確保と中長期的な更新計画の策定
 - ・ 信号機の撤去
→ 街づくりの一環

第2回検討会

中長期的視野に立った交通安全施設整備の在り方に関する基本的な考え方

- 第1回検討会のふり返し
- 検討内容
 - 1 交通安全施設の整備の方向性
 - 2 交通安全施設の維持管理の方向性
 - (1) 点検
 - (2) 更新
 - (3) 合理化